

チーム医療リテラシー

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授		
担当講座・学科(分野)	全学教育推進機構、人間科学科心理学・行動科学分野、緩和医療学科、医療安全学講座、法科学講座法医学分野、医学教育学講座医学教育学分野、生化学講座分子医化学分野、微生物学講座感染症学・免疫学分野、薬理学講座情報伝達医学分野、病理学講座機能病態学分野、腫瘍生物学研究部門、衛生学公衆衛生学講座、泌尿器科学講座、解剖学講座発生生物・再生医学分野、生理学講座病態生理学分野、生化学講座細胞情報科学分野、微生物学講座分子微生物学分野、薬理学講座病態制御学分野、口腔医学講座関連医学分野、口腔医学講座予防歯科学分野、口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野、医療薬科学講座衛生化学分野、臨床薬学講座情報薬科学分野、生物薬学講座神経科学分野、薬科学講座分析化学分野、病態薬理学講座薬剤治療学分野、臨床薬学講座臨床薬剤学分野、薬学教育学分野、臨床薬学講座地域医療薬学分野、病態薬理学講座分子細胞薬理学分野、共通基盤看護学講座、地域包括ケア講座、看護専門基礎講座、人間科学科哲学分野、人間科学科法学分野、情報科学科数学分野、物理学科、外国語学科英語分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 16.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

専門職連携教育(Inter Professional Education)の一環として、初年次での、「多職種連携のためのアカデミックリテラシー（問題解決型学習を含む）」での経験を踏まえ、3年次では全人的医療を実現するうえでの多職種連携の必要性を理解することを目的とする。これまでの教養教育・専門教育での知識や経験を生かし、患者の健康段階に応じたサポート体勢がどのような職種によるチームによって形成されるのか、また、緩和ケアにおいて患者の痛みを全人的に理解するためにどのような検討が必要なのかを、講義と医学・歯学・薬学の学生によるアクティブラーニングを通じて学修する。また、立場の異なるメンバーが集まったグループにおいて、一つの判断や結論を出すワークを行うことで、他者の意見を傾聴し、他者の価値観に配慮したうえで自己の意見を主張するスキルを学修し、チーム医療に必要なコミュニケーションの在り方や方法を理解する。

・教育成果（アウトカム）

専門教育途上にある学生が、他の学部学生とともに患者の健康段階に応じた多職種の役割について学び、討議することで、全人的医療を実現するうえでの多職種連携の必要性に気付く。また、緩和医療における患者の全人的苦痛を類推し、それに対応する医療職を考えることによって、命を預かる医療人としての高いモラルと患者や他の職種を尊重する意識を身につける。これらのことにより、今後の医療知識獲得や臨床実習実践をより一層意欲的に行う覚悟を持つ。アクティブラーニングを通して、立場の異なるメンバーの意見を傾聴し、また、自分の意見をわかりやすく説明することを学修し、多様な価値観を尊重し、他者を畏敬する謙虚な気持ちを維持することができる。あわせて、生涯にわたってコミュニケーション能力をブラッシュアップするための要点をつかむ。

(ディプロマポリシー：1,4,5)

・到達目標 (SBO)

1. 医学・歯学・薬学のそれぞれの立場で、チーム医療について考え、全人的医療を実現する誠の医療人として何をなすべきかを見定めることができる (52)。
2. 医療安全における多職種役割を説明することができる (53)。
3. 3 学年までに学修した知識を基に、患者の健康段階に応じた医療における多職種役割について考え、チーム医療の必要性を説明することができる (51、115)。
4. 医学・歯学・薬学・看護学のそれぞれの立場で、緩和ケアの問題を考え、誠の医療人として何をなすべきかを見定めることができる (4、7)。
5. 自分の価値観や判断の仕方を再認識し、他者の価値観を理解することができる (7)。
6. グループで意思決定の際のプロセスとグループダイナミクスについて説明することができる (49、56)。

・講義日程

(矢) 大堀記念講堂他、実習室等

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
5/21	火	3	全学教育推進機構 ・教養教育センター 心理学・行動科学分野	佐藤 洋一 全学教育推進機構長 相澤 文恵 教授	講話：多職種連携教育について 1.我々の目指すチーム医療について説明できる。 カリキュラム説明 2. カリキュラムの目的と受講方法を説明できる。 事前学習：シラバスをよく読み、本科目の到達目標と講義内容を確認する。 (大堀記念講堂)
5/21	火	4	医療安全学講座 心理学・行動科学分野	肥田 圭介 教授 相澤 文恵 教授	医療安全講義 1. 医療安全について、成り立ちとその経緯、目的、意義について説明できる。 2. 安全な医療の提供に対するチーム医療の必要性を説明できる。 3. チーム医療遂行のために必要な各職種の役割を理解し実践できる。 事前学習：最近の医療事故事例について調査する。 事後学習：現場で行われている医療安全対策を学び、その目的を理解する。 PEG 説明 1. iPEG の目的と使用方法について理解する。 (大堀記念講堂)

5/21	火	5	心理学・行動科学分野 緩和医療学科 医療安全学講座 医学教育学分野 分子医化学分野 感染症学・免疫学分野 情報伝達医学分野 機能病態学分野 腫瘍生物学研究部門 衛生学公衆衛生学講座 泌尿器科学講座 発生物・再生医学分野 病態生理学分野 細胞情報科学分野 病態解析学分野 分子微生物学分野 予防歯科学分野 小児歯科学・障害者歯科学分野 衛生化学分野 情報薬科学分野 神経科学分野 分析化学分野 薬物代謝動態学分野 薬剤治療学分野 臨床薬剤学分野 薬学教育学分野 共通基盤看護学講座 地域包括ケア講座 看護専門基礎講座 心理学・行動科学分野 法 学 分 野 物 理 学 科 物 理 学 科 物 理 学 科 数 学 分 野	相澤 文恵 教授 木村 祐輔 特任教授 肥田 圭介 教授 相澤 純 特任講師 古山 和道 教授 村木 靖 教授 近藤 ゆき子 講師 増田 友之 教授 前沢 千早 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 講師 原田 英光 教授 成田 欣弥 講師 横田 聖司 助教 衣斐 美歩 特任講師 石河 太知 助教 岸 光男 教授 森川 和政 教授 川崎 靖 助教 佐京 智子 助教 藤田 融 助教 牛島 弘雅 助教 小澤 正吾 教授 手塚 優 助教 平船 寛彦 助教 奈良場 博昭 教授 嶋森 好子 教授 末安 民生 教授 遠藤 龍人 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 小松 真 講師 小田 泰行 助教 寒河江 康朗 助教 長谷川 大 助教	iPEG 1.医療における多職種連携の必要性を説明できる。 2.iPEG の使用法を説明できる。 3.医療にかかわる多職種の名前と役割を概説できる。 事前学習：医療、保健、福祉に関わる職種を調べておく。 事後学習：学んだ多職種の名前と役割を確認し、次週からのワークショップに備える。 <p style="text-align: right;">(各実習室)</p>
5/28	火	3	衛生学公衆衛生学講座	佐々木 亮平 助教	講演：医療における多職種連携（災害支援を例として） 1. 医療における多職種連携を災害支援（受援）の例として説明できる。 事前学習：公衆衛生の視点を持って、過去の災害支援（受援）事例を調査する。 事後学習：有事の災害活動の実例から職種の役割を解放した協働について学び、平時の多職種連携について理解を深める。 <p style="text-align: right;">(大堀記念講堂)</p>

5/28	火	4	心理学・行動科学分野 緩和医療学科 医療安全学講座 医学教育学分野 分子医化学分野 感染症学・免疫学分野 情報伝達医学分野 機能病態学分野 腫瘍生物学研究部門 衛生学公衆衛生学講座 泌尿器科学講座 発生物・再生医学分野 病態生理学分野 細胞情報科学分野 病態解析学分野 分子微生物学分野 病態制御学分野 関連医学分野 予防歯科学分野 衛生化学分野 情報薬科学分野 神経科学分野 分析化学分野 薬物代謝動態学分野 薬剤治療学分野 臨床薬剤学分野 薬学教育学分野 共通基盤看護学講座 地域包括ケア講座 看護専門基礎講座 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 物理学科 英語分野 英語分野	相澤 文恵 教授 木村 祐輔 特任教授 肥田 圭介 教授 相澤 純 特任講師 古山 和道 教授 村木 靖 教授 近藤 ゆき子 講師 増田 友之 教授 前沢 千早 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 講師 原田 英光 教授 成田 欣弥 講師 横田 聖司 助教 衣斐 美歩 特任講師 石河 太知 助教 田村 晴希 講師 千葉 俊美 教授 岸 光男 教授 川崎 靖 助教 佐京 智子 助教 藤田 融 助教 牛島 弘雅 助教 小澤 正吾 教授 手塚 優 助教 平船 寛彦 助教 奈良場 博昭 教授 嶋森 好子 教授 末安 民生 教授 遠藤 龍人 教授 遠藤 寿一 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 小松 真 講師 大沼 仁美 助教 柳谷 千枝子 助教	ワークショップ1（健康段階に応じた多職種の役割） 1. 事例に示された患者の健康段階において必要とされる患者・家族へのサポートを列挙することができる。 2. 1であげられたサポートに主体的に関わる専門職を列挙することができる。 3. 健康段階に応じて、患者・家族に対する全人的に関わり（身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側）を述べることができる。 （各実習室）
5/28	火	5	心理学・行動科学分野 緩和医療学科 医療安全学講座 医学教育学分野 分子医化学分野 感染症学・免疫学分野 情報伝達医学分野 機能病態学分野 腫瘍生物学研究部門 衛生学公衆衛生学講座 泌尿器科学講座 発生物・再生医学分野 病態生理学分野 細胞情報科学分野	相澤 文恵 教授 木村 祐輔 特任教授 肥田 圭介 教授 相澤 純 特任講師 古山 和道 教授 村木 靖 教授 近藤 ゆき子 講師 増田 友之 教授 前沢 千早 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 講師 原田 英光 教授 成田 欣弥 講師 横田 聖司 助教	ワークショップ1（健康段階に応じた多職種の役割） 1. ワークショップの結果をグループごとに発表し、他グループのメンバーと討議できる。 2. チューターからのフィードバックを受け、医療における多職種役割と多職種連携の必要性について説明できる。 事前学習：教科書をよく読み、演習の手順を確認しておく。 事後学習：医療に関わる多職種（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の職種）が、患者の解釈モデルを理

			病態解析学分野 分子微生物学分野 病態制御学分野 関連医学分野 予防歯科学分野 衛生化学分野 情報薬科学分野 神経科学分野 分析化学分野 薬物代謝動態学分野 薬剤治療学分野 臨床薬剤学分野 薬学教育学分野 共通基盤看護学講座 地域包括ケア講座 看護専門基礎講座 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 物理学科 英語分野 英語分野	衣斐 美歩 特任講師 石河 太知 助教 田村 晴希 講師 千葉 俊美 教授 岸 光男 教授 川崎 靖 助教 佐京 智子 助教 藤田 融 助教 牛島 弘雅 助教 小澤 正吾 教授 手塚 優 助教 平船 寛彦 助教 奈良場 博昭 教授 嶋森 好子 教授 末安 民生 教授 遠藤 龍人 教授 遠藤 寿一 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 小松 真 講師 大沼 仁美 助教 柳谷 千枝子 助教	解したうえで患者の健康段階に応じて患者、家族に果たす役割を確認する。 (各実習室)
6/4	火	3	緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	緩和医療論講義 1. 緩和ケアについて、歴史、理念、意義について説明できる。 2. 全人的な“痛み”を理解し説明することができる。 3. がん治療に関わる多職種(医師、看護師、薬剤師、MSW, 臨床心理士ほか)それぞれの役割について理解し説明することができる。 事前学習：緩和ケアについて、教科書該当箇所を熟読する。 事後学習：生命を脅かす疾患に罹患した患者や家族が抱える全人的苦痛を理解し、チーム医療で支援することの重要性を確認する。 (大堀記念講堂)
6/4	火	4	心理学・行動科学分野 緩和医療学科 医療安全学講座 法科学講座法医学分野 分子医化学分野 感染症学・免疫学分野 情報伝達医学分野 機能病態学分野 腫瘍生物学研究部門 衛生学公衆衛生学講座 泌尿器科学講座	相澤 文恵 教授 木村 祐輔 特任教授 肥田 圭介 教授 高宮 正隆 講師 古山 和道 教授 村木 靖 教授 近藤 ゆき子 講師 増田 友之 教授 前沢 千早 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 講師	ワークショップ2 (緩和医療における多職種の役割) 1. 記述されている内容から類推される患者・家族の苦痛を想像し、患者の”全人的苦痛”(身体的苦痛、社会的苦痛、精神的苦痛、スピリチュアルペイン)を列挙することができる。 2. 1にて列挙した苦痛(つらさ)への対応方法をグループで話し合い、主体的に関わる専門職を列挙し、チームとしての対応方法を述べるができる。

			発生物・再生医学分野 病態生理学分野 細胞情報科学分野 病態解析学分野 分子微生物学分野 病態制御学分野 関連医学分野 小児歯科学・障害者歯科学分野 衛生化学分野 情報薬科学分野 神経科学分野 分析化学分野 薬物代謝動態学分野 薬剤治療学分野 臨床薬剤学分野 薬学教育学分野 共通基盤看護学講座 地域包括ケア講座 看護専門基礎講座 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 物理学科 物理学科 物理学科	原田 英光 教授 成田 欣弥 講師 横田 聖司 助教 衣斐 美歩 特任講師 石河 太知 助教 田村 晴希 講師 千葉 俊美 教授 森川 和政 教授 川崎 靖 助教 佐京 智子 助教 藤田 融 助教 牛島 弘雅 助教 小澤 正吾 教授 手塚 優 助教 平船 寛彦 助教 奈良場 博昭 教授 嶋森 好子 教授 末安 民生 教授 遠藤 龍人 教授 遠藤 寿一 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 小松 真 講師 小田 泰行 助教 寒河江 康朗 助教	3. 自らの専門性（医師、歯科医師、薬剤師）を基盤とした”苦痛（つらさ）”への関り、他の医療職との連携による対応方法を述べることができる。 （各実習室）
6/4	火	5	心理学・行動科学分野 緩和医療学科 医療安全学講座 法科学講座法医学分野 分子医化学分野 感染症学・免疫学分野 情報伝達医学分野 機能病態学分野 腫瘍生物学研究部門 衛生学公衆衛生学講座 泌尿器科学講座 発生物・再生医学分野 病態生理学分野 細胞情報科学分野 病態解析学分野 分子微生物学分野 病態制御学分野 関連医学分野 小児歯科学・障害者歯科学分野 衛生化学分野 情報薬科学分野 神経科学分野 分析化学分野 薬物代謝動態学分野 薬剤治療学分野	相澤 文恵 教授 木村 祐輔 特任教授 肥田 圭介 教授 高宮 正隆 講師 古山 和道 教授 村木 靖 教授 近藤 ゆき子 講師 増田 友之 教授 前沢 千早 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 講師 原田 英光 教授 成田 欣弥 講師 横田 聖司 助教 衣斐 美歩 特任講師 石河 太知 助教 田村 晴希 講師 千葉 俊美 教授 森川 和政 教授 川崎 靖 助教 佐京 智子 助教 藤田 融 助教 牛島 弘雅 助教 小澤 正吾 教授 手塚 優 助教	ワークショップ2（緩和医療における多職種の役割） 1. ワークショップの結果をグループごとに発表し、他グループのメンバーと討議できる。 2. チューターからのフィードバックを受け、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 事前学習：緩和ケアについて、該当箇所を熟読する。 事後学習：全人的苦痛を抱えた患者やその家族への支援を行う際の、医療者連携のあり方について、自らの専門性（医師、歯科医師、薬剤師、看護師）を中心に多職種連携の重要性を確認する。 （各実習室）

			臨床薬学分野 薬学教育学分野 共通基盤看護学講座 地域包括ケア講座 看護専門基礎講座 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 物理学科 物理学科 物理学科	平船 寛彦 助教 奈良場 博昭 教授 嶋森 好子 教授 末安 民生 教授 遠藤 龍人 教授 遠藤 寿一 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 小松 真 講師 小田 泰行 助教 寒河江 康朗 助教	
6/11	火	3	心理学・行動科学分野 緩和医療学科 医療安全学講座 法科学講座法医学分野 医学教育学分野 分子医化学分野 感染症学・免疫学分野 情報伝達医学分野 機能病態学分野 腫瘍生物学研究部門 衛生学公衆衛生学講座 泌尿器科学講座 病態生理学分野 細胞情報科学分野 病態解析学分野 分子微生物学分野 関連医学分野 予防歯科学分野 小児歯科学・障害者歯科学分野 衛生化学分野 情報薬科学分野 神経科学分野 分析化学分野 薬物代謝動態学分野 薬剤治療学分野 臨床薬学分野 薬学教育学分野 地域医療薬学分野 地域医療薬学分野 分子細胞薬理学分野 共通基盤看護学講座 地域包括ケア講座 看護専門基礎講座 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	相澤 文恵 教授 木村 祐輔 特任教授 肥田 圭介 教授 高宮 正隆 講師 相澤 純 特任講師 古山 和道 教授 村木 靖 教授 近藤 ゆき子 講師 増田 友之 教授 前沢 千早 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 講師 成田 欣弥 講師 横田 聖司 助教 衣斐 美歩 特任講師 石河 太知 助教 千葉 俊美 教授 岸 光男 教授 森川 和政 教授 川崎 靖 助教 佐京 智子 助教 藤田 融 助教 牛島 弘雅 助教 小澤 正吾 教授 手塚 優 助教 平船 寛彦 助教 奈良場 博昭 教授 高橋 寛 教授 松浦 誠 特任教授 弘瀬 雅教 教授 嶋森 好子 教授 末安 民生 教授 遠藤 龍人 教授 遠藤 寿一 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	代表者発表会 1.各会場から選出されたチームの発表を聞き、その内容について討議することができる。 2. 討議に参加することにより、医療における多職種役割と多職種連携の必要性について説明できる。 事前学習：発表会の討論に参加できるように2回のワークショップで取り上げた事例について復習しておく。 事後学習：患者が家族とともにその人らしく生きるために、医療チームを構成するメンバーそれぞれがどのような役割を果たし、協働すべきかについて確認する。 (大堀記念講堂)

6/11	火	4	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	講演：緩和医療における多職種連携の実態 (村上雅彦先生・大船渡病院) 1.緩和医療における多職種連携の現状を説明できる。 (大堀記念講堂)
------	---	---	------------	----------	--

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教※	チーム医療リテラシー 2019	全学教育推進機構		2019
推	臨床緩和ケア 第3版	大学病院の緩和ケアを考える会(編)	青海社	2013

・成績評価方法

ワークショップへの参加態度(40%)、レポート等提出物(60%)はルーブリックを用いて評価する。
--

・特記事項・その他

<p>本科目では、一般的な講義に加えて複数回のワークショップを実施する。グループ編成は4学部混成とする。各ワークショップにおける課題達成過程についての評価を時間内にフィードバックする。各回の振り返りシートはポートフォリオとして提出する。シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、科目開講時に配布された教科書等を用いて事前、事後の学習を行うこと。各授業に対する自己学修時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。また、各ワークショップにおいて課せられたレポート課題はWeb classにて提出すること。</p> <p>多職種連携に関する意識と社会的スキルの変化を評価するため、アンケート調査を科目の開始時と終了時の2回実施する。</p> <p>※の教科書は講義の初日に配布します。</p>
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型PC (Safari pro FJY-00014、dynabook R634/K)	1	講義資料の提示
講義	書画カメラ・DVD プレーヤーセット (エルモ、東芝他)	1	講義資料の提示
講義	デスクトップ型PC (HP Compaq Pro 633 SFF)	1	講義資料の作成